

## 第2回設立推進委員会が開催される

11月8日（火）に第2回設立推進委員会が開催されました。そして大成小学校学校運営（連絡）協議会の委員が選出されました。

また、来年度に向けて、次の2点を重点的に取り組むことなどを決めました。

- ①学校×地域協働システム（学校応援団）の組織の拡充
- ②情報発信（コミュニティ・スクールの周知・理解の浸透）



大成小学校では、これまでも保護者や地域の皆様に協力をいただきながら、子どもたちの健やかな成長のための活動を行ってきました。

読み聞かせ会、スキー教室支援、たいせいクマノミ隊による登下校の見守り、各地区ラジオ体操、もちつき会等。

今まで行ってきたことの輪を広げながら、より学校と地域が連携しながら「地域とともにある学校」づくりを目指していきます。どうか皆様のご理解とご協力をお願いします。

### 学校運営（連絡）協議会委員

No.	役職	氏名	備考
1	会長	森内 秀次	二大地区町会連合会会長
2	副会長	棟方 成人	PTA会長
3	委員	一戸 雅子	元PTA副会長
4	委員	鈴木 弘	前弘前人權擁護委員協議会会長
5	委員	山崎 均	学区まなびい講座運営委員長
6	地域コーディネーター	平井 未央	PTA総務委員長
7	地域コーディネーター	阿部 昌士	前PTA会長
8	委員	佐藤 昭	学校・校長
9	委員	成田 満	学校・教頭
10	委員	猪股 健	学校・教務主任

- ・協議会の委員は10名以内とする。
- ・委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- ・協議会に会長と副会長を置く。会長は委員の互選により選出し、副会長は会長の指名による。

## 地域とともにある学校づくり

### 図書館ボランティアの活動が始まります(^o^)

図書館ボランティアにお二人の方が協力を申し出てくださいました。ありがとうございます。活動の様子は次号で紹介します。まだまだ参加者、募集中です!!

### 5年家庭科 ～ミシン学習～

たくさんのボランティアの皆様が協力してくださりました。きめ細やかな学習ができました。



## コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）Q&A（第2回）

### ■Q1「学校×地域の協働」が求められる背景は何ですか？

**A1：子どもの学びに多様性が、地域の人々には地域のつながりが生まれます！**

子どもたちの「生きる力」は、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものです。学校だけで育まれるものではありません。子どもたちの確かな育ちを保障するには、信頼できる大人との多くの関わりが不可欠です。

また、現在の学校や子どもたちが抱える課題や家庭・地域社会が抱える課題等を解決していくためにも、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、社会総掛かりでの教育の実現がいまこそ必要なのです。

### ■Q2「学校運営協議会委員」にはどんな方がなるのですか？

**A2：保護者や地域を代表する方々です！**

保護者の代表としてPTA会長など、地域の方の代表として町会長や学区まなびい講座運営委員長など、また教育関係として元校長先生など、さらに学識経験者などが委員となります。学校からは校長・教頭・教務主任等が委員となります。

# コミュニティ・スクール先進校の研修視察に行ってきました

東京都 三鷹市立第四小学校・11月10日(木)、三鷹市立第七中学校・11月11日(金)  
(三大小 高橋校長、大成小 佐藤校長、文京小 竹浪教務主任、三中 石田教頭、市教委 種市係長)



連雀学園「三鷹市立第四小学校」



おおさわ学園「三鷹市立第七中学校」

三鷹市立第四小学校は、東京都三鷹市にある公立小学校。通称「三鷹四小」と呼ばれ、三鷹市立南浦小学校、三鷹市立第六小学校、三鷹市立第一中学校と「連雀学園」の関係にあり、「最大の学園だからこそ、最大の成果を」を合言葉に学園経営を行い、コミュニティスクール先進校として知られている。

三鷹市立第七中学校は、三鷹市立大沢台小学校、三鷹市立羽沢小学校とともに「おおさわ学園」を構成している。三鷹市の「コミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育」構想を基に、地域の人により運営される学校であるという認識のもと、学校と地域を結ぶコーディネート部会を設置し、協働して教育活動を行っている。



- ・第四小も第七中も、平成20年度より小中一貫教育による「連雀学園」「おおさわ学園」を開園している。両校ともそれ以前にコミュニティ・スクールを設置しており、地域との協働を推進してきたことを基盤に学園構想へと発展してきている。
- ・現在、三鷹市の各学園は、学園毎の大きな運営協議会を設置しており、学校毎の運営協議会の委員を兼ねている。
- ・コミュニティ・スクールの成功は、学校と地域・保護者との協力のシステム作りがポイントである。学校×地域協働の理解を進めることが大切である。
- ・各学園とも、学園としての一貫性を重視しつつも、各校の独自性を尊重している。
- ・小中が交流する活動や相互乗り入れ授業を多くすることで、中学生には自己有用感が高まり、小学生には中学校に対する期待感が高まっている。



## 小中一貫教育システムの取組

### チャレンジ社(まんじ)



10月25日(火)、6年生が郷土「弘前」を知り、弘前を大好きになってもらうきっかけづくりとして、弘前に関する問題にチャレンジしました。結構難しかったようでしたが、弘前に関心をもつよい機会となりました。

三中学区を一つの地域(学園)と見なし  
学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし  
子どもたちの9年間の育ちを支えていこう!

### 小中一貫教育システムの年内の予定

- ①三中学区小中連絡協議会(11/22・文京小)
- ②三中学区あいさつ運動(12/1・各学校)
- ③テレビ会議システムを活用した小中交流(12/2・大成小、三中)  
大成小6年生が三中2年生に、テレビ会議システムを利用し、中学校の学習や部活等について質問し、回答やアドバイスをもらいます。

